

平成 25 年度 市政アンケートモニター調査反映状況

	調査名（実施課）	反 映 状 況
1	静岡まつりについて （観光・シティプロモーション課）	<ul style="list-style-type: none"> ・「第 57 回静岡まつりに行きましたか」との問いに対し、「はい」と答えた 20 代の人の割合がおよそ 2 割しかいなかったことから、新たな企画として、御幸通り Den bill 前において「SHIZUOKA COLLECTION」（シズオカコレクション）を行った。御幸通りにランウェイが設置され、有名モデルによるファッションショーが行われ、多くの来場者を魅了した。 ・「今後静岡まつりをより多くの人々が訪れる催事にするためにはどうすればよいと思いますか」との問いに対し 100 人中 45 人が「同時期に開催されている廿日会祭との連携」と回答した。その結果から、静岡まつり実行委員会と駿府脚（ねり）振興会において連携について検討を行い、4 年ぶりに「脚勢揃い（ねりせいぞろい）」と「大御所花見行列の浅間神社社参」を行った。市役所観覧席前には 5 台の山車（だし）が並び、木遣りや地踊りが披露され、静岡まつりを大いに盛り上げた。 ・今回のアンケート結果を参考に、今後も静岡まつりがより魅力的で、様々な人たちに楽しんでいただけるお祭りとなるよう、各種催しや事業規模について実行委員会とともに検討していく。
2	シズオカ×カンヌウィークについて （地域活性化事業推進本部）	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報しずおか」を情報源とした人が 48.3%と約半数を占めていたことから、5 月号の広報紙の表紙を使用して、「シズオカ×カンヌウィーク 2014」の告知を実施した。 ・主要なターゲット層である 20~40 代の参加・来場が、いずれも 10%以下と低かったことから、来場者の特性に合わせた効果的なプロモーション活動を展開し、イベントの周知を図った。 ・今後の取り組みとして、「マルシェ等の店舗の充実」（23.0%）や「映画関連イベントの充実」（22.6%）をあげる意見が多かったことから、マルシェの店舗の拡大、若手映画監督のトークイベント、図書館や美術館での映画上映、シネマ&トークカフェなど、行政のみならず、企業、団体、市民と連携し、事業の拡充を図った。 ・家族での来場も多く、「子ども向けイベントの充実」を望む意見が 16.3%であったことから、中学生の職場体験学習を実施し、中学生の視点・着眼点で、事業の企画を提案した。
3	静岡市 5 市営温泉浴場について （中山間地振興課）	<ul style="list-style-type: none"> ・「オクシズ市営温泉活性化サポート研修」において、5 市営温泉の全スタッフで、当該アンケート調査結果概要を共有し、これを受けて、紅葉シーズン終了から冬季期間に向けた閑散期の取り組みを検討した。 ・市営温泉へ足を運ぶ要因として「その場所ならではの美味しい料理が楽しめる」との意見が多かったため、昨年度に引き続き実施を予定している「オクシズ市営温泉浴場等活性化サポート研修」において、市営温泉浴場と隣接する加工物販施設や食事処を巻き込んだ取り組みを検討していく予定である。

4	公園の運営について (公園整備課)	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの清掃状況について 75%が不満に感じていることから、各公園愛護会長には、情報提供依頼を行い、業者だけでなく、地域の目によっても公園施設の維持管理を行って。また平成 25 年度は公園内に新たにバリアフリートイレを 12 公園に設置をし、今後も継続して街区公園等に新設していく予定である。 ・愛護会の認知度が 15%と非常に低かったことから、愛護会の活動等を公園整備課のホームページを通じて周知をしていく予定である。
5	地域医療の確保・充実について (保健衛生総務課)	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡市急病センター」の認知度について、利用の有無を含めて「知っていた」が 90%あり、認知度は高かったが、平成 25 年 4 月に東静岡地区に移転したことから、より一層の周知を継続している。 ・「静岡子ども救急電話相談#8000」の認知度について、「まったく知らなかった」が、全体で 46%、20 代から 40 代でも 36%であったことから、子育て世代への周知を強化するため、他課と連携した啓発活動を行った。 ・日頃、病気やケガの時に行くことを決めている「かかりつけ医」の有無について、78%が持っていたが、「かかりつけ医」を持っていない方は、どのように選んだらいいかわからない方が多く、今後医師会と連携し、かかりつけ医を持つことの普及啓発に努めていく。 ・急病センターや市内の救急医療体制に関する様々な貴重な御意見が寄せられた。救急医療体制については、多くの施設を整備することは難しいことから、救急医療の適正受診の啓発の強化や救急医療体制の情報の積極的な提供を行っていく。
6	市民の防犯意識について (市民生活課)	<ul style="list-style-type: none"> ・「静岡市の最近の治安が回復していると感じている」と回答した方は 9%と低かった。また、「地域で行われている防犯活動に参加している」、「参加する予定がある」と回答した方も 7%という低い結果であった。安全で安心して暮らせる地域社会の実現には、地域で一体となって防犯活動に取り組むことが重要なことから、防犯に対する意識を高めてもらうための広報・啓発活動や、地域の防犯活動に対する支援について検討していく。 ・静岡市の犯罪被害者等支援相談窓口の認知度が 32%であったことから、引き続き相談窓口の周知に努めていくとともに、犯罪被害者等支援について理解を深めていただくような啓発方法を検討していく。 ・今回のアンケート結果を参考に、市の防犯及び犯罪被害者等支援に関する施策を総合的に推進するための「第 2 次犯罪等に強いまちづくり基本計画」の策定について静岡市犯罪等に強いまちづくり推進審議会で審議した。